

第12回「日本鉄道賞」応募案件の概要

| 応募者・応募件名・概要 | |
|--|---|
| <p>応募者: 東日本旅客鉄道㈱</p> <p>応募件名: 旧万世橋駅遺構を整備活用し、さらなるまちの魅力向上をめざします</p> <p>概要</p> <p>1 ・開通から100年以上の間、中央線を支え続けてきた万世橋高架橋に現存している旧万世橋駅のホームおよび階段の遺構を整備の上公開し、この土地の歴史を体感できる施設とする。</p> <p>・さらに、新たな価値の創出として、神田川の親水性(周辺環境との調和)を向上させると共に、アーチ内部についても、遺構と一体となった商業施設を展開し、まちの賑わいを創出する。</p> |  |
| <p>応募者: 東海旅客鉄道㈱</p> <p>応募件名: 地元とともに『あゆむ』さわやかウォーキング</p> <p>概要</p> <p>2 ・「さわやかウォーキング」は、沿線の観光資源をめぐる原則参加費無料・予約不要のウォーキングイベントである。</p> <p>・『ただ歩くだけ』とならないよう、コースルート上で物販などの催しを地元自治体と協力して実施するとともに、マスコットキャラクターである『あゆむ君』によるお出迎え、お見送りを実施するなど『お客様へのおもてなし』を重視して取り組んでいる。</p> <p>・平成3年に5コースで開始して以来徐々に開催数を増やし、平成24年10月には累計3,000回開催、平成25年5月に累計参加者数350万人を達成した。</p> |  |
| <p>応募者: 西日本旅客鉄道㈱</p> <p>応募件名: 新幹線ファンを拡大せよ!! ～「カンセンジャー」の使命～</p> <p>概要</p> <p>3 ・新幹線車両のなかでも人気の高い500系をモチーフに、また、子どもたちに親近感を持ってもらうように、「普段は車掌」「趣味は子どもと遊ぶこと」というキャラクターを設定し、平成24年10月14日にデビューイベントを実施した。</p> <p>・各種イベントへの出演はもちろん、主題歌の作成やホームページの開設、ラッピング列車を運転する等認知度向上に取り組んでいる。</p> <p>・平成25年5月に実施された団体専用臨時列車の日帰りツアーでは、車内で騒いでいた子どもに「カンセンジャーはそんなことしないよ」と言ったらおとなしくなるなど、教育にも十分役立つという声もあった。</p> |  |
| <p>応募者: 四国旅客鉄道㈱</p> <p>応募件名: 芸術祭とのコラボ 瀬戸内沿線でのJR四国の取り組み</p> <p>概要</p> <p>4 ・岡山県・香川県の瀬戸内海の島々を舞台とした瀬戸内国際芸術祭2013にあわせ、平成25年3月から以下の取り組みを実施。(芸術祭は、春・夏・秋の3回に分けて開催され、11月まで。)</p> <p>・芸術祭実行委員会とともに企画したアート作品「アラキー列車」を予讃線・土讃線にて運行している。</p> <p>・ほかにも、フリーきっぷの販売やヘッドマークをつけるなどし、芸術祭の盛り上げと地域の活性化に取り組んでいる。</p> <p>・これらの取り組みによって、ゴールデンウィーク期間中、瀬戸大橋線の利用が、前年比1%増となった。</p> |  |
| <p>応募者: 四国旅客鉄道㈱</p> <p>応募件名: JR四国25周年イベントの取り組みについて</p> <p>概要</p> <p>5 ・平成24年のJR四国発足25周年を記念し、「毎日の安心と笑顔を これからも」のキャッチフレーズのもと、鉄道の魅力を伝える各種イベントを実施した。</p> <p>・具体的には、夏休みに各工場や運転所で車両修繕作業や工事車両の見学や洗車体験など、普段見ることができない鉄道の仕事を学習する「夏休み親子鉄道塾」を計13回開催した。</p> <p>・また、鉄道の仕事を紹介するポスターの掲出や列車や駅を紹介する公式ガイドブックを作成し、全線フリー型の特別企画乗車券を購入した利用客等を対象に12,000冊を配布した。</p> |  |
| <p>応募者: 九州旅客鉄道㈱</p> <p>応募件名: 「ななつ星in九州」誕生の軌跡</p> <p>概要</p> <p>6 ・これまでも数多くのデザイン&ストーリー列車をつくり、運行してきたJR九州が、その集大成として、クルーズトレイン「ななつ星in九州」を開発した。</p> <p>・コンセプトは、「新たな人生にめぐり逢う、旅。」である。</p> <p>・プロローグは、博多駅の専用ラウンジ「金星」より、「非日常」の「ななつ星」に入るといものである。</p> <p>・客室は、全室スイートの14室、最大定員は30名で、ラウンジカー、ダイニングカーも併設され、媒体では日本版オリエント急行とも紹介される。</p> <p>・平成25年10月15日、第1便が発車する。</p> |  |

応募者・応募件名・概要

7 **応募者: 日本貨物鉄道(株)**
応募件名: 鉄道コンテナによる災害廃棄物輸送
概要
 ・平成23年3月の東日本大震災により発生した大量の災害廃棄物について、平成23年11月より岩手県、宮城県から東京地区等に向けた輸送を開始した。
 ・安全・安定に輸送できる鉄道の信頼性が高く評価され、輸送量は着実に増加。平成24年秋には、12ft換算で約3,000個/月(15,000トン)を輸送した。
 ・宮城県女川町、石巻市、岩手県大槌町の災害廃棄物輸送は、平成25年春に終了した。
 ・平成25年4月より、岩手県釜石市、陸前高田市、山田町の災害廃棄物輸送も開始し、今後も、鉄道の特性を活かしつつ、被災地の日も早い復興に向けた一助となるよう、鉄道輸送を通じた社会貢献に努めていく。



8 **応募者: 東京地下鉄(株)・東武鉄道(株)・西武鉄道(株)・東京急行電鉄(株)・横浜高速鉄道(株)**
応募件名: 川越・飯能から池袋・新宿・渋谷、そして横浜・中華街まで一直線！5社の路線間による相互直通運転の実現
概要
 ・平成25年3月16日、東急東横線・東京メトロ副都心線がつながり、首都圏最多の5社間による相互直通運転路線が誕生した。
 ・埼玉方面から新宿・池袋・渋谷の首都圏をとり、横浜地区までの広域な地域間の距離を縮め、新たな人の流れを生み出し、元町・中華街駅は乗降客2割増、川越の観光名所は2.6倍に増加など、地域・経済の活性化に繋がっている。



9 **応募者: 西武鉄道(株)**
応募件名: 所沢駅改良 ～交通拠点にふさわしい駅づくり～ 多様なニーズに応え、交流拠点となる新しい駅のカタチ
概要
 ・所沢駅は、埼玉県西部に位置する人口34万人の中核都市「所沢市」の玄関駅であり、池袋線と新宿線が交差し、乗り換え客を含めると、1日20万人を超える利用客のあるターミナル駅である。
 ・乗り継ぎ利便性の向上のため、駅の中央に新駅舎を構築し、バリアフリー化を図るなどの工事を行っていたが、平成25年6月をもってすべての工事が完了した。
 ・お客様参加型で、「所沢駅に林を描こう！」と題し、地元で産出される木材を利用し、壁面に「とこりん」と呼ばれるレリーフを作成した。



10 **応募者: 小田急電鉄(株)**
応募件名: 蛍光灯比・最大76%の電力を快適に削減 ～調光機能付きLED照明搭載車両の運行を開始～
概要
 ・車内照明の使用電力を削減するため、調光機能付きLED照明を導入した。
 ・鉄道車両にこの調光機能を持たせるには、新たな制御回路を車両に導入する必要があったが、メーカーと新技術を共同することで、鉄道車両では初の取り組みとなった。
 ・3段階の車内照明の設定が可能で、最大約76%の消費電力を削減した。
 ・平成25年3月4日に4000形1編成で運行を開始し、今後も車両新造や車両リニューアル時に、順次導入していく計画である。



11 **応募者: 京浜急行電鉄(株)**
応募件名: 交通渋滞解消・地域の発展と 羽田空港アクセスの大幅な向上 都市部での急速施工により28箇所の踏切を除却 『京急蒲田駅付近連続立体交差事業』
概要
 ・平成13年に着工したこの事業は、直接高架工法による急速施工の手段をとり、平成24年10月21日に全線高架化した。
 ・国道15号や環状8号線の踏切をはじめとする28箇所の踏切が除却された。
 ・京急蒲田駅付近を2層高架化し、平面交差を解消することにより、直通列車の列車本数の増強や所要時間を短縮するなど、羽田空港アクセスが大幅に向上した。



12 **応募者: 東京地下鉄(株)**
応募件名: ハイテクレトロな1000系車両登場 ～最先端技術が詰まった懐かしいレイン～
概要
 ・銀座線1000系新造車両を導入するにあたり、安全性はもとより快適性、省エネルギー性さらには異常時の安心感の向上をテーマに、各機器において最新技術の開発を行った。
 ・具体的には、操舵台車の導入による曲線通過時の、振動・騒音の大幅な低減、LED照明による明るい車内や省エネルギー性の向上、非常用バッテリーの搭載により停電時に最寄りの駅まで走行可能とするシステムの導入を図り、平成24年4月11日から運用を開始した。



応募者・応募件名・概要

| | | |
|----|--|--|
| 13 | <p>応募者:近畿日本鉄道㈱</p> <p>応募件名:～ 最高のおもてなしで伊勢志摩へ～ 新しい鉄道の旅をご提案する観光特急「しまかぜ」デビュー！</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢志摩の活性化、鉄道利用の促進をめざし、大阪難波駅、近鉄名古屋駅と賢島駅間で、平成25年3月21日に運行を開始した。 ・車両外観は、伊勢志摩の海をイメージしたブルーを基調にカラーリング、先頭はシャープで躍動感のあるデザインとし、展望車両やサロン席、個室を配し、多彩な車種で編成を構成し、乗ること自体が旅の目的となる列車を目指した。 ・連日満席状態で運行し、チケット入手が困難な状況が続いており、また伊勢神宮の式年遷宮等により、伊勢志摩への特急の乗車人数は、前年比約30%アップした。 |   |
| 14 | <p>応募者:神戸高速鉄道㈱・阪神電気鉄道㈱</p> <p>応募件名:阪神三宮駅改良工事 - 都市鉄道利便増進事業 - ～次の80年へ、安全で魅力ある駅への再生～</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市鉄道利便増進事業の第1号として平成19年10月に着工し、平成25年3月に完成した。 ・東改札口を新設し、市の地下通路と接続、JRやポートライナーとの乗換利便性が向上した。 ・西改札口を拡張し、エレベーターの設置、バリアフリー化を実現した。 ・駅構内の配線を変更し、ホーム幅員を拡張、「梅田方面行」列車から「なんば・奈良方面行」列車への乗換を同じホームで可能にした。 |   |
| 15 | <p>応募者:西鉄ステーションサービス㈱</p> <p>応募件名:来てみんかんも柳川！ ～地域と共におもてなし～</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県柳川市は、「川下り」や「うなぎのせいろ蒸し」で有名であり、柳川の玄関口である西鉄柳川駅として、公共交通の発信力・宣伝力・情報力を活かし地域と共に盛り上げようと動き出した。 ・行楽客で賑わうゴールデンウィーク期間中、地域・企業・行政が三位一体となり感謝の気持ちをパフォーマンスで表現し、出迎えを行った。 |   |
| 16 | <p>応募者:由利高原鉄道㈱</p> <p>応募件名:何も無いから何でもできた！ 日本最悪の鉄道環境の下、V字回復に成功した「スパイラルアップ戦略」</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本最悪ともいえる鉄道環境の下、平成23年より「スパイラルアップ戦略」と銘打ち、取り組みを展開した。 ・女子会ほろ酔い列車などユニークなイベントを開催するとともに、メディアへの情報提供も行い、多くの方の目に触れるようにした。 ・平成24年8月には、在京ITアドバイザーと契約し、SNSを活用してファンを増やすとともに、地域と連携したツアーを行うなど、外部の力を活用した。 ・結果定期外旅客は、平成23年から平成24年で25%増となった。 |   |
| 17 | <p>応募者:埼玉高速鉄道㈱</p> <p>応募件名:地域のこれからを担う子どもたちに「鉄道体験学習プログラム」</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『鉄道』が安全で快適な環境を提供する乗り物であることを、バリアフリー施設や設備等を『体験』することにより、交通マナーや道徳心が総合的に『学習』できるプログラムである。 ・沿線地域の小学生に鉄道という素材を通じて様々な社会体験の場を提供し、体験して学習するこのプログラムを通じて、地域社会で輝く子どもたちに育っていくことを支援し、地域貢献する。 ・第1回として、平成25年5月17日にさいたま市立美園小学校3年生を対象にプログラムを実施した。 |   |
| 18 | <p>応募者:名古屋臨海高速鉄道㈱</p> <p>応募件名:あおなみ線に「OS☆Uあおなみ線隊24」誕生！</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あおなみ線」の知名度向上と利用者増加を目的として、名古屋発の超絶元気発信ご当地アイドル「OS☆U」のメンバーが、「OS☆Uあおなみ線隊24」として、平成24年4月より「24-twenty four」をテーマソングとしながら、活動を行っている。 ・「あおなみウォーク」やイベント列車等に積極的に参加した結果、あおなみ線の利用人数は、前年度と比べて1日あたり約800人、年間約27万人増加している。 |  |

応募者・応募件名・概要

| | |
|---|---|
| <p>19</p> <p>応募者:スカイレールサービス㈱ 応募件名:ICOCAを利用可能とした自動改札システムへの更新 ~入退場管理システムをベースとした交通系改札システムの導入~</p> <p>概要 ・従来のIC定期券に加え、IC回数券を導入し、また磁気乗車券をQR券とすることで、全券種を非接触としたものであり、平成25年1月より運用を開始した。 ・ICOCAを利用可能なシステムとするとともに、入退場管理システムをベースとすることで、ICカード内のデータ書換が不要なため、ICOCA利用に伴う関係各所との調整が不要となり、小規模な事業者でもICOCAとの連携が可能となった。</p> | <p>ICカードリーダー</p>  <p>QRコードリーダー</p> |
| <p>20</p> <p>応募者:肥薩おれんじ鉄道㈱ 応募件名:観光列車「おれんじ食堂」 沿線と作り上げた観光列車</p> <p>概要 ・増収・沿線活性化の起爆剤として、平成25年3月24日から運行を開始した。 ・沿線7市町の厳選した旬の食材を使用した料理を提携したレストランからデリバリーし、また、停車駅でのおもてなしも沿線のお店などと協力して提供する。 ・大型連休中は毎日運行し、平成25年5月の定期外輸送人員は前年同月比108.6%、定期外運輸収入は同138.0%と、ともに大幅増となった。</p> |  |
| <p>21</p> <p>応募者:(公財)鉄道総合技術研究所 応募件名:日本の鉄道技術の海外展開に寄与する国際標準化への取り組み(日本の鉄道技術の発信と国際的貢献に向けて)</p> <p>概要 ・これまで欧州主導で進められてきた国際標準化において、ISO(国際標準化機構) / TC269(鉄道分野専門委員会)の設立への対応を行い、日本が主体的に標準化活動に参加できる体制を確立し、日本の鉄道技術の世界への発信と国際的な貢献を進めていく環境を整えた。</p> |  |
| <p>22</p> <p>応募者:宮崎県小林市役所内吉都線100周年記念事業小林市実行委員会事務局 応募件名:吉都線・小林駅100周年記念事業</p> <p>概要 ・吉都線・小林駅は、平成24年10月に100周年を迎えた。 ・平成22年4月に発生した口蹄疫の影響により冷え込んだ経済の復興及び地域の活性化を目的として、市民協働により、小林駅100周年記念運行式、観光列車によるおもてなしなど各種イベントを平成24年6月25日から平成25年3月31日にわたり実施した。 ・市民の気運醸成を図るとともに、新たな鉄道需要を喚起し、従来から減少し続けていたJR吉都線利用者数(小林駅・西小林駅乗降者数)も約20,000人増えた。</p> |  |
| <p>23</p> <p>応募者:福井県立歴史博物館 応募件名:地域の歴史と鉄道の関わりを伝える「福井の鉄道」コーナー 常設展示内に新設「鉄道王国・福井」、県立歴史博物館によみがえる</p> <p>概要 ・福井県は、昭和30年代までは、国鉄が幹のように、私鉄が枝のように発達しており、いわば「鉄道王国」ともいえる状況であった。 ・鉄道敷設が、地域の近代化に果たした役割を知ってもらい、鉄道の利点を再認識し、未来の地域のあり方を考えるきっかけを発信するため、平成25年3月に、常設展示の近代・現代部分に「福井の鉄道」コーナーを設置した。 ・「駅弁」の掛け紙や鉄道ジオラマを展示することで、見る人の興味を引く展示となっており、コーナー設置直後の平成25年3月の来館者数は、前年同月比407.41%と大幅に伸びた。</p> |  |
| <p>24</p> <p>応募者:「メグ会」直通戦隊ゴセンジャーの普及を楽しむ会 応募件名:イメージソング 直通戦隊ゴセンジャー</p> <p>概要 ・平成25年3月16日、東急東横線と東京メトロ副都心線の相互直通運転により5つの路線が1つの路線として結ばれるのを記念して、イメージソング(応援歌)を作成した。 ・ゴセンジャーのキャラクターを創り、車内マナーの啓発などの役割も設定した。 ・平成25年3月17日の東急東横線中目黒駅での相互直通記念セレモニーでBGMとして採用されるとともに、中目黒桜まつりへの参加、テレビ媒体での紹介やYouTubeへの投稿を通し、認知度向上につとめている。</p> |  |

応募者・応募件名・概要

| | | |
|-----------|---|--|
| <p>25</p> | <p>応募者: (有)ディアハート 応募件名: 新幹線のウタ “Shinkansen” by Toninho Horta 概要 ・この楽曲の作者、トニーニョ・オルタ氏は、日本とブラジルの架け橋となるようなアルバムとして「MINAS-TOKYO」を作成した。日本の新幹線システムに感動し、ブラジルへの導入を希望しており、この楽曲は、その第1曲目に収録している。 ・平成24年12月に発売され、アマゾンのワールドミュージックとしては、非常に好成績をあげ、本年8月には、ブラジル本国での発売が決まっている。また、イギリス、アメリカからも打診があり、欧米での発売が期待される。</p> |  |
| <p>26</p> | <p>応募者: 特定非営利活動法人 情緒豊かな町づくり 応募件名: 駅員無配置駅での乗車券販売再開と新たなコミュニティの創設に向けた取り組み 概要 ・平成24年のダイヤ改正に伴い駅員が無配置となったJR御殿場線山北駅の乗車券販売再開の取り組みである。 ・山北町が鉄道の町であったため、同じ思いをもっていた多くの鉄道関係OBが立ち上がることで、協力体制を整えることができた。 ・乗車券販売再開後は、地域住民を含め、駅が新たなコミュニティの場として活用され始めた。</p> |  |
| <p>27</p> | <p>応募者: 河出書房新社 応募件名: 出久根 達郎(編)「むかしの汽車旅」(河出文庫、2012年7月刊) 概要 ・鉄道に関するエッセイのアンソロジーであり、夏目漱石、正岡子規など30名の名随筆を編集した。 ・刷部数8,000、実売は現時点で5,500である。</p> |  |